



アイルランドの南西部がマンスターと言われている地域である。マンスターは多彩な魅力を持つ地域で、毎年多くの観光客が訪れている。マンスターには拠点となる3つの町がある。3つの町とは、アイルランド南部の中心都市コーク、シャノン川河口の町リムリック、そしてカラフルな街並みの魅力的な町キラニーである。

コークはアイルランドで2番目に大きな町で、パリやロンドンからもフライトがある。コークの町には聖フィンバー大聖堂（コークの町は7世紀に聖フィンバーがここに教会を建てたのが始まりとされている）やコーク博物館などいろいろと数多くの見所があるが、コークの近くにあるブラーニーの町も興味深いところだ。ブラーニーの町には1446年に創設されたブラーニー城があり、この城の頂上付近には「ブラーニー・ストーン」がある。「ブラーニー・ストーン」にキスをするると雄弁になれるという伝説があり、多くの人が「ブラーニー・ストーン」にキスをしている。しかし、この「ブラーニー・ストーン」にキスをするためには高いところから身を乗り出さなければならず、そう簡単にキスはできない。そのため度胸のある人しか雄弁にはなれないようだ。

アイルランドからは本当に多くの人々が移民としてアメリカへと旅立っていったのだが、移民たちの多くがアイルランドを出発したのはコークの近くにある港町のコーヴからであった。とりわけ1840年代の「ジャガイモ飢饉」の時代は悲惨で、アイルランドの人々は生き延びるために移民となってアメリカをはじめとする世界各地へと旅立っていった。19世紀において、アイルランドの農民の主食はジャガイモであったので、ジャガイモが不作になると深刻な結果を招いたのである。コーヴにはコーヴ・ヘリテージ・センターがあり、ここではアイルランドの移民の歴史を学ぶことができる。

リムリックは9世紀にバイキングによって造られた町である。歴史的にはリムリックは1691年にイングランドとアイルランドとの間で締結されたリムリック条約で有名である。この条約によってアイルランドのカトリック教徒は信仰の自由を認められていたのだが、この条約をイングランドは守らず、カトリック教徒を処罰する法律を次々と制定していった。そのため、リムリックにある「条約の石」は「イングランドの裏切り」を象徴する石となっている。リムリックの近くには19世紀のアイルランドの村を再現したボンラッティ・フォーク・パークもあり、かつてのアイルランドの人々の生活に思いをはせることができる。

マンスターの南西部に位置するキラニーの周辺には多くの見所があり、キラニーはこの地域の観光上の拠点となっている。町は大きくはないが、パブやB&Bも数多くあり、キラニーはカラフルな街並みの居心地のいい町だ。キラニーの町を訪れたのは3年ほど前だが、是非また訪れたいと思っている。キラニーを拠点にして、キラニー国立公園やケリー周遊路、さらにディングル半島に行くことができる。ケリー周遊路は約170キロの海岸沿いのルートだが、素晴らしい景観を楽しむことのできる場所だ。とりわけ「貴婦人の眺め」という名のビューポイントからの景観は素晴らしいのだが、実はこの「貴婦人の眺め」のすぐ近くにLeprechaun Crossingと書かれている興味深い標識がある。Leprechaun Crossingとは「レプラホーンが道を横切るので注意」という意味である。レプラホーンとはアイルランドの代表的な妖精で、片方だけ靴を治してくれる靴屋である。レプラホーンはどこかに金貨の壺を隠し持っているときされている。この標識のところで1日ずっと待っていても、レプラホーンが見られるという保証はないが、レプラホーン・グッズならアイルランドに行けば簡単に手にはいる。ディングル半島も興味深い所で、ここは今でも日常的にゲール語を話す地域として知られている。ディングル半島には数多くの遺跡があるだけでなく、自然も大変美しく、訪れる価値のある所である。マンスターは魅力的な場所が本当にたくさんある所だと思う。

さわだ としあき（教授・西洋史）